

風早北部 防犯情報 しょうなん

行動無くして結果生まれず

SHOW "No Action No-result"



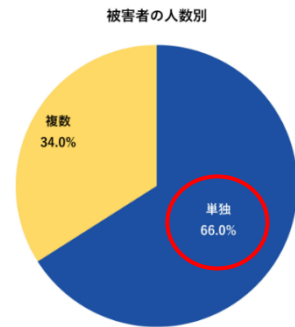
防犯活動を町内で工夫しての実施を パトロールを実施していない のに旗が出ているのは逆効果かもネ

地域防犯で最も効果的な活動は「防犯パトロール」ですが、活動の担い手不足、実施者の高齢化により、パトロール活動自体が停滞している傾向はどこも否めません。改めて、より効果的な町内での防犯活動について考えてみましょう¹。

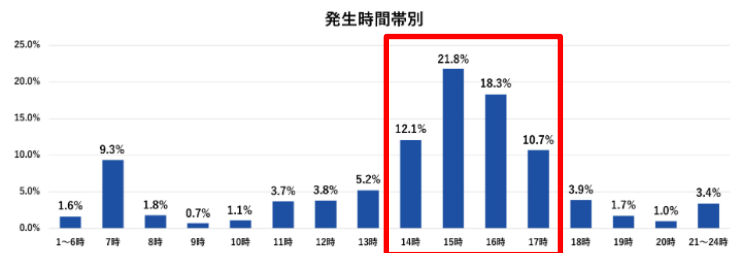
子どもが被害に遭いやすい状況とは

13歳未満を対象にした千葉県警察の「不審者情報の分析結果」(令和5年中)を見てみると、子どもが被害に遭いやすい状況にはいくつか傾向があることがわかります。最も多いのが子ども**単独行動時に被害に遭う**ケースです。また、**通学時や帰宅時の被害が全体の約6割を占めており、特に下校時間帯である14時台から17時台での発生が最も多くなっています。**

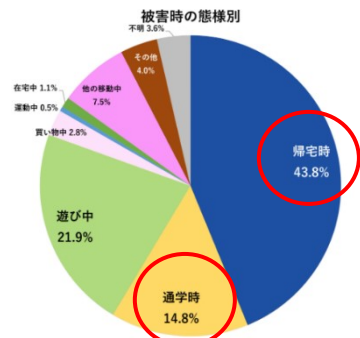
統計データを元に考えると、登下校の際はなるべく一人で行動するのを避けることが有効な防犯対策といえますが、どうしても一人で行動せざるを得ない時もあると思います。そこで重要なのが、地域全体で子どもたちへの被害についての共通認識を持つことです。そして一人ひとりが被害の未然防止に向けての行動を意識的に取っていくことで、地域一体として不審者を寄せ付けない防犯効果が期待できるでしょう。



出典：千葉県警察・不審者情報の分析結果（令和5年中）【被害者の人数別】



出典：千葉県警察・不審者情報の分析結果（令和5年中）【発生時間帯別】



※他の移動中は、通学・帰宅以外の友人宅や、塾等への移動中となります。

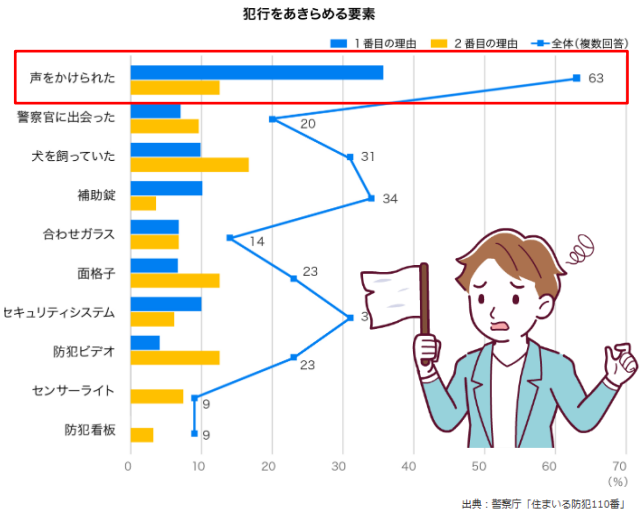
出典：千葉県警察・不審者情報の分析結果（令和5年中）【被害時の態様別】

あいさつには犯行をためらわせる効果が

あいさつには、近所や地域の住人との相互認知やコミュニケーションの機会をつくるなど、人と人とのつながりを深める効果が期待できます。周囲とつながることによって、自然と地域コミュニティが形成され、地域外の者に対するチェック機能がはたらくようになるのです。

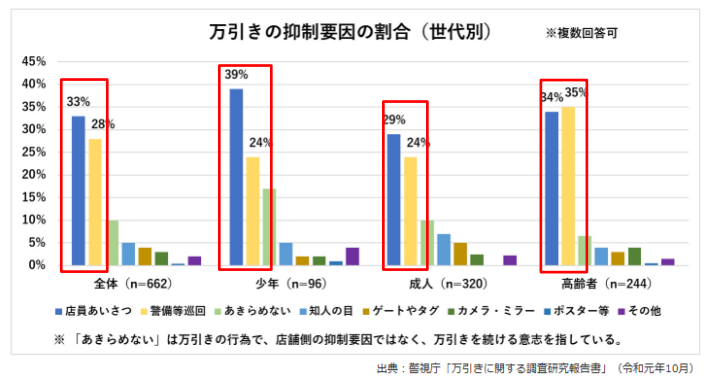
そして、このチェック機能こそが空き巣などの犯罪抑止に効果を発揮します。犯罪を

行おうとする不審者は必ず事前に現場を下見します。警察庁の「住まいる 110 番」によれば、この下見の時に**犯行をあきらめる理由で多いのが「近所の人に声をかけられたり、ジロジロみられたりした」**なのです。



あいさつによる防犯効果

もうひとつ、あいさつが犯罪抑制に効果的であることを示すデータを紹介합니다。警視庁の「万引きに関する調査研究報告書」（令和元年10月）によれば、**万引きをしようとする不審者が万引きを諦める要因として「店員のあいさつ」「警備等巡回」の割合が高い**ことが分かっており、声かけと警備員の巡回が万引きの未然防止に非常に有効であることが示されています。一方、防犯カメラや防犯ゲートにも万引き抑制効果は見受けられますが、声かけ・警備員の巡回の防犯効果の高さは際立っています。



あいさつはためらわず恥ずかしがらず

あいさつを実践するうえで大切なことは、相手の顔を見て、なるべく大きな声で話かけることです。まずは**日常使っている簡単な言葉での声かけから始めてみましょう**。簡単な言葉とは、

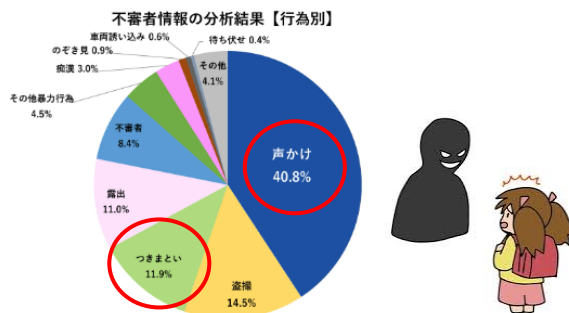
おはようございます・行ってらっしゃい・行ってきます・こんにちは・こんばんは

などです。とはいえ、普段からあいさつをすることに慣れていないと抵抗もあるかもしれません。ためらいや恥ずかしさであいさつができない人もいるでしょう。そんな方は、**初めは知人と一緒に始めてもよいでしょう**。ただし、子どもの場合は、あいさつの実践にも注意が必要です。小学生ともなると、子供だけで行動することも多くなります。まだまだ抵抗する力も弱く、相手を見分ける危機回避能力が身についていない子どもは、犯罪の標的となる可能性が高いからです。

子どもに教えるべきあいさつの注意点とは

あいさつには、相手を見る、相手を知る、というメリットがある反面、あいさつをきっかけとして事件などに巻き込まれることも否定はできません。とくに小学生くらいの子どもの場合には、相手からやさしく声をかけられると知り合いだと勘違いして反応してしまうことも考えられます。

13歳未満を対象にした千葉県警察の「不審者情報の分析結果」（令和5年中）では、見知らぬ不審者に声をかけられた、つきまとわれたケースが5割超という報告もあります。



出典：千葉県警察・不審者情報の分析結果（令和5年中）「【行為別】」

地域活動に子どもを積極的に参加させる

相手を見分ける危機回避能力を子どもに学

習させるには、**親と子どもが一緒になって街の美化活動や清掃活動などに参加するというのも有効な対策です**。こうして地域の人と子どもが顔を合わせる機会を作っていけば、住人の中にどこそこの子という認識が生まれますし、子ども側にも誰が住民かの認識を作ることができます。誰が知り合いで、誰が知らない人なのか、といった判断が徐々にできるようになります。子どもに他人との付き合い方を学ばせる教育の場にもなるでしょう。

あいさつ運動を有効に取り入れよう

あいさつ運動は、既に全国のさまざまな自治体や学校などで実践されています。町内や地域でのあいさつ運動を推奨するとともに、子どもたちへの注意喚起を怠らないよう気を付けましょう。

（本稿はこれで終わりです）

↑ 出典元：HOME ALSOK 研究所公式サイト 2024.4.22 更新掲載情報「地域の防犯対策を簡単に強化…」より。